

Press Release

当プレスリリースについて

この資料は、ドイツのベーリンガーインゲルハイム (Boehringer Ingelheim GmbH) が 8 月 14 日に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。なお、日本の法規制などの観点から一部、削除、改変または追記している部分があります。この資料の内容および解釈についてはオリジナルが優先することをご了承ください。

ベーリンガーインゲルハイム、2013 年上半期も引き続き成長軌道 売上高は 3.1%増(現地通貨ベース)の約 71 億ユーロ(約 8,908 億円)

- プラザキサ[®]、トラゼンタ[®]、スピリーバ[®]が成長を牽引
- 本年度中にさらなる成長を見込む

2013 年 8 月 14 日 ドイツ/インゲルハイム

ベーリンガーインゲルハイムは 2013 年上半期、世界的に厳しいビジネス環境にもかかわらず、さらなる成長を達成しました。売上高は現地通貨ベースで前年比 3.1%増の約 71 億ユーロ(約 8,908 億円)となりました。主な成長要因は、経口抗凝固薬「プラザキサ[®]」、2 型糖尿病治療薬「トラゼンタ[®]」、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 治療薬「スピリーバ[®]」の伸長でした。

取締役会会長の Prof. アンドレアス・バーナーは「上半期は、長引く医療費抑制政策などにとどまらず、欧州以外からも多くの課題が目立ちました。ベーリンガーインゲルハイムにとって医療用医薬品は最も重要な領域ですが、2013 年第 1 四半期の同グローバル市場は、停滞気味でした^{*1}。めまぐるしく変化するビジネス環境に柔軟に対応できるようにしていくため、グローバルでの体制やプロセスの継続的な検証や調整が必要とされています」と述べました。

さらに今後の展望について次のように述べています。「競争力を引き続き高めていくために、私たちはグループ全体の未来を左右する領域に今後も投資を継続します。増加する研究開発費をさらに伸ばすだけでなく、生産設備や品質管理プロセスも一層向上させていきます。また、多くの製品上市準備をしています。たとえば、ヒト用医薬品の領域では、肺がん治療薬であるアフアチニブが今後数カ月のうちに、順次各国で上市される見込みです」。

^{*1} Source: IMS Health-MIDAS



2013年8月26日

ベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社
広報部

東京都品川区大崎2-1-1

ThinkPark Tower

Tel: 03-6417-2145

Fax: 03-5435-2920



当プレスリリースは、弊社HPからも
ご覧になれます。

www.boehringer-ingelheim.co.jp

アフチニブは EGFR 遺伝子変異を有する肺がんの治療薬として、7 月に GILOTRIF® という製品名で米国食品医薬品局 (FDA) から承認を受けました。欧州市場では、関係当局からすでに承認勧告を受けており、あと数週間のうちに承認を受ける予定です。糖尿病領域に加え、腫瘍領域はベーリンガーインゲルハイムが取り組む新しい領域になります。

2013 年度:さらなる成長を見込む

財務担当取締役のフベルトウス・フォン・バウムバッハは次のようにコメントしました。「厳しいビジネス環境にもかかわらず、私たちは 2013 年通年ではさらなる成長を見込んでいます。グローバルの医薬品市場が停滞している中、当社は 1 桁台前半の売上成長率を見込んでおり、これは、長期的な展望をふまえると市場を上回る成長となります」。

ベーリンガーインゲルハイムの主要事業領域である医療用医薬品事業の 2013 年上半期の売上高は現地通貨ベースで 3.5% 増の 53 億 4,100 万ユーロ (約 6,701 億円) となり、連結収益の約 75% を占める結果となりました。最も大きな成功を収めた製品は、「スピリーバ®」で、売上高は現地通貨ベースで 3.9% 増の 18 億 2,600 万ユーロ (約 2,291 億円) と、依然として高い成長率を示しています。新たに上市した「トラゼンタ®」は引き続き堅調に売上を伸ばし、約 2 億ユーロ (約 251 億円) の売上を達成しました。「プラザキサ®」の売上高は 6 億 1,200 万ユーロ (約 768 億円) となり、現地通貨ベースで 27.9% の増加です。これまでに「プラザキサ®」は 100 カ国以上で承認されています。

2013 年上半期のコンシューマーヘルスケア事業 (OTC 医薬品事業) の売上高は現地通貨ベースで 8.3% 増の 7 億 1,200 万ユーロ (約 893 億円) となり、売上全体の約 10% を占めます。グローバル市場でのコアブランドは、「BUSCOPAN®」「DULCOLAX®」「MUCOSOLVAN®」「PHARMATON®」「BISOLVON®」です。ベーリンガーインゲルハイムはドイツで、6 月に急性下痢症の治療薬「VAPRINO®」を、その 1 カ月後にかぜ薬「BOXAGRIPPAL®」を上市しました。ベーリンガーインゲルハイムは OTC 医薬品業界において世界第 7 位となっています。

アニマルヘルス事業の 2013 年上半期の売上高は 5 億 2,600 万ユーロ (約 660 億円) となり、現地通貨ベースで前年同期比 1.5% 超の伸び率となりました。今期も「インゲルバック®」の豚用ワクチン製品群がその主な成長要因とな

りました。春からは、犬のてんかん治療薬である「PEXION®」が欧州で上市されています。

バイオ医薬品事業の2013年上半期の売上高は現地通貨ベースで21.2%減の1億6,800万ユーロ(約121億円)でした。

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムグループは、世界でトップ20の製薬企業の1つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で140の関連会社と46,000人以上の社員が、事業を展開しています。1885年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物薬の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任を果たすことは、企業文化の最も重要な柱です。事業を展開する世界の国々において、社会問題に取り組み、社員とその家族を思いやり、全社員に平等な機会を提供することが、ベーリンガーインゲルハイムの基盤です。そして、尊重と誠実を重んじ、環境保護と持続可能な社会の実現に向けて貢献することが、ベーリンガーインゲルハイムの本質であり使命です。

2012年度は147億ユーロ(約1兆5,086億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、医療用医薬品事業の売上の22.5%相当額を研究開発に投資しました。

日本ではベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社が持ち株会社として、その傘下にある完全子会社の日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(医療用医薬品)、エスエス製薬株式会社(OTC医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパン株式会社(動物用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社(医薬品製造)の4つの事業会社を統括しています。

日本ベーリンガーインゲルハイムは、呼吸器、循環器、中枢神経などの疾患領域で革新的な医療用医薬品を提供しています。

エスエス製薬は、ベーリンガーインゲルハイムの経営資源を活用し、スイッチOTC薬の開発・導入など、日本市場への新しい価値の提案を行っています。

同グループにおけるコンシューマーヘルスケア分野の持続的な成長を支える役割を担っています。

ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパンは、日本の動物用医薬品市場で、豚、牛、家禽といった畜産分野、及び、コンパニオンアニマルの健康分野に注力し、製品の開発、マーケティング、販売を展開しています。

ベーリンガーインゲルハイム製薬は、日本における医薬品の製造拠点としての役割を担っています。

詳細は下記をご参照ください。

<http://www.boehringer-ingenelheim.com/>

(ベーリンガーインゲルハイム)

<http://www.boehringer-ingenelheim.co.jp/>

(ベーリンガーインゲルハイム ジャパン)

お問い合わせ先:

ベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社
広報部

Tel. 03-6417-2145

Fax. 03-5435-2920